

債務は、英語ではDebtやLiabilitiesであるが、いろいろな説明が可能である。

まずは義務obligationとどう違うか。義務のうち、債務は、「法的に履行が必要な義務」である、金銭の支払いや物の引き渡しは債務である。単に道義的に履行が必要だけの義務は含まれない。逆に、義務の反対語である権利rightのうち、法的に履行を求めることができるのが債権Creditということになる。

次に、債務の反対語であるが、債権である。債権・債務関係は、金融用語ではclaims and obligations、会計用語ではreceivables and payablesのようである。通常は、金

銭の貸借に使うことが多いので、Lender and Borrowerである。言い換えれば、銀行など融資機関からお金を借りた個人や法人を「債務者」といい、銀行などの融資機関は、元本と利息を返済してもらう「債権者」である。

負債と(自己)資本をあらわすDebtと

Equityは、資金調達区分であり、Equityは、無限責任を伴うリスクマネーである。Debt Equity Ratioといえは負債比率、(自己)資本に対する負債の比率(倍率)であり、財務分析の重要な概念の一つである。逆に、(自己)資本÷(自己)資本+負債)なら自己資本比率となる。また、債務には、長期債務(1年超)

債務のいろは

と短期債務(1年以内)があり、長期債務は設備投資に、短期債務は運転資金に使うのが一般的である。なお、長期債務も、返済期限が1年以内になれば短期債務と言う。なお、(売掛金+在庫-買掛金)は、長期運転資金と呼ばれ、運転資金ではあるが、継続する企業の底だまり資金(持ち続けなくてはならない運転資金)なので、設備投資資金とともに長期

資金で賄うのが望ましい。

債務超過もある。債務超過は、累積損失が(自己)資本よりも大きくなり、負債が総資産を超えた状態のことで、破産(insolvency)状態である。このような状態では債務の返済もできず、企業価値はない(マイナス)ということになる。

対外債務は、外国からの借入や外国人の国債保有であり、(民間債務を含まない)政府の対外借入をいうことが多い。対外債務のデフォルトで問題となったことで有名なのが1980年代のラテンアメリカ諸国の累積債務問題と1990年代後半のアジア通貨危機である。コロナ禍でアフリカの貧しい国々の債務も返済が難しい状態が続いている。債務は、国の活動や企業の活動のみならず個人の生活をも広げる(豊かにする)重要な手段であるが、常に利払いと元本返済を伴う。したがって、ゆとりのある国家財政や企業財務や個人の資産管理が必要となるのである。

(アリス)